



昨年の学習発表会で上演した「深澤晟雄物語」はまさに「命輝く」感動の舞台でした。

「命輝く教育」の実践

沢内小 今年度のスローガン

今年度の沢内小学校のスローガンは「『命輝く教育』の実践」を掲げて、「毎日来るのが楽しい学校」「地域と繋がる学校」をめざしています。

これは「生命村長の深澤理念を後世に」という本会の活動と想いを一つにするものです。深澤晟雄資料館の持つ機能で、学校教育の実践に役立つものがあれば

積極的に連携を深めたいと願っています。

沢内小学校の校報「さわうち小」第1号（4月8日発行）には、今年度のスローガン設定のねらいと決意を込めた次の記事が掲載されています。

今年度の沢内小学校のスローガンは「『命輝く教育』の実践」です。

旧沢内村は、故深澤晟雄村長が住民の命と健康を守り、昭和37年には、全国で初めて乳児死亡率ゼロの金字塔を打ち立てた地であり、住民が自分たちの命を守り、明るく健康的な生活を営む権利を自分たちの手で勝ち取っていったという地方自治・住民自治の精神をまさに実現した村です。このような歴史を学び、故郷に誇りを持つとともに、命の繋がりを大事にし、健康を自分自身で管理・創造

する力の基礎を身に付けるとともに、自分自身の可能性に自信を持ち、心豊かに充実した生活を築く子どもへの育成を目指していきます。

大型連休は

水曜休館に

深澤晟雄資料館は4月から冬期の休館体制を解除して通常開館しています。

また、毎週火曜日は休館日ですが、その日が祝日の場合はその翌日を休館日とします。ただし、休館日でも予約開館をしていますのでご相談ください。

ゴールデンウィークは4月29日と5月6日の火曜日は開館し、翌日の水曜日が休館となります。



窮屈な三角屋根の雪囲いから解放され、春の陽光を浴びて来館者を待つ資料館前の深澤晟雄氏胸像（4月19日撮影）

ニュース発行 年間6回に

毎月1回発行を原則に「深澤晟雄の会ニュース」を発行してきましたが、法人の財政事情で昨年からは冬季2回を休刊としました。さらに今月から隔月で年間6回の発行を余儀なくされました。多くの皆様のご支援と印刷業者の印刷費サービスにもかかわらず、発行回数減は誠に恐縮に存じますが、ご理解のほどよろしく願います。



講演の中で著書を紹介する及川和男さん

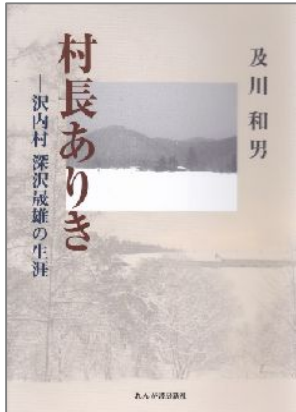
及川和男さんの署名入りも 深澤村長を描いた本

～ 資料館でお求めください ～

一関市在住の作家・及川和男さんの著書で、深澤村長の生命行政や理念・生涯を描いた本が3冊出版されています。参考までにそれぞれの本を簡単に紹介します。
いずれも深澤晟雄資料館でお求めいただけます。中には子どもの誕生日や娘の出生（初孫）など「いのちの記念日」のプレゼントに購入し活用される方もございます。
「生命村長」と「村長ありき」は著者の署名入りです。これは資料館のみの扱いで、数に限りがありますので希望者はお早めにお求め下さい。

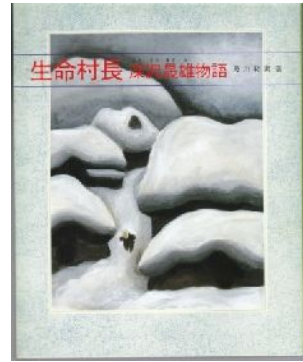
村長ありき 沢内村

深澤晟雄の生涯



乳児と老人の医療費を無料化、全国自治体初の乳児死亡率ゼロ達成など、豪雪、貧困、多病多死にあえぐ岩手県沢内村にあって「奇蹟」と呼ばれる生命行政を樹立した深澤晟雄の全生涯。「混迷たどる人の世」に再び深澤精神を問う！

(1600円)



生命村長 深澤晟雄物語

「日本のチベット」といわれた岩手県にあって、長い間豪雪と病氣と貧困の苦しみにうめいてきた山奥の小さな村。生まれた赤ちゃんがコロコロと死んでいった乳

児死亡率日本一の暗い無医村。その沢内村が「日本の健康村」に生まれ変わるまでを追い求めた本です。
活字も大きく、漢字にルビがふられて小学生やお年寄りにも親しまれています。
(1200円)

命見つめ 心起こし



「生命村長」
深澤晟雄スタディ

自分たちで命を守った沢内村は、今も確固とした原点であり、深澤さんの発したメッセージは強烈な光となつてわれわれに差し込んでくる。(著者)
感動作「村長ありき」を刊行してから四半世紀、深澤晟雄村長の理念と方法をめぐる著者のスタディは続く。新発見の「憲法解説ノート」も収録！
(1000円)